

## [003\_03]流體工學研究所報告表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7153222>

---

出版情報：流體工學研究所報告. 3 (3), 1947-12-01. Research Institute for Fluid Engineering,  
Kyushu Imperial University

バージョン：

権利関係：



# 流體工學研究所報告

第3卷 第3號 昭和23年9月

## 發 刊 の 辭

前流體工學研究所長栖原豊太郎先生は、昨昭和21年9月に芽出度く還曆を迎へられ、そして同年9月末日に九州大學の停年制内規により功成り名遂げて九州大學教授の職を辭され、同時に流研所長の椅子より去られ、現在乞はれて工學部講師、流研囑託として尙教育研究の仕事に關係して居らるゝとはいへ、閑雲野鶴を友とするの境地に悠々自適して居られます。

先生は明治43年、東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業せらるゝや早くも、我國の將來に對する航空機の重要性を洞見せられて、直ちにその方面の研究に着手すると共に、國內に於ける航空學の教育並に研究の基礎確立に就て盡力せられ、元の東大航空研究所や航空學科の創設が、先生の方に負ふ處大であつた事は人のよく知る處であります。更に昭和9年旅順工科大學への赴任と共に同大學航空學科の創立及舊滿洲國內航空機工業の發展に努力せられ、又昭和13年九州帝國大學に移られるに及んでは又同大學内の航空學科創設に關與されました。そして更に流體工學研究所の開設に參劃努力せらるゝと共に、昭和17年の創立以來昨昭和21年に到る5年の間所長として創設時の多忙な所務を司つてその嚮ふ處に誤なからしめ、今日の旺盛なる所運を築き上げられたのであります。

尙、各種學會や法人の創立に參與せられた事が甚だ多いのでありますが、それにもまして、その精力的な研究力は、非常に多方面に光彩を放ち、本來の専門である航空發動機に關する研究の外に、有名な高速度活動寫眞機の研究、流體、彈性、熱等、特に應用力學關係のあらゆる部門に八面六臂の手腕を發揮され、學界に不滅の業績を残すと共に我々後輩への誘掖指導に尠からざる力を致された事は感謝に堪えぬと共に、大いに敬服する處であります。

此處三十餘年に亘る劇務より離れて晴耕雨讀の境涯に入らるゝと云ふ事は人生の一エポックへのペリオッドとして先生としては一面本壤とする處かも知れませんが、我々として、非常に寂寥を感じると共に、誠に残念に思ふのであります。

こゝに些か我々流體工學研究所關係者の先生に對する敬慕の情を披瀝せんが爲に、報告を先生の記念號として發刊する事に致しました。幸ひにして我々の心情を諒とせらるゝ處あれば欣快これに過ぐるもの有りません。

一言蕪辭を連ねて發刊の辭と致します。

流體工學研究所長 渡 邊 惠 弘

昭和22年1月